

P.04 茨城のくらしと産業を支える物流最前線

牛、豚、鶏などの畜産業には必要不可欠な配合飼料、鹿島臨海工業地帯では年間約400万トンの生産、多数の配合肥料メーカーが集中する鹿嶋から、関東、甲信越、福島に輸配送し畜産を支える

P.06 働きやすい職場認証で労働環境改善を推進

工場関係の荷物が主体で休日は比較的多く、福利厚生も充実させて社員の定着率も良い、しかし社員の高齢化の進行が大きな悩み、企業の発展には若い人の採用が不可欠、働きやすい職場認証の取得でアピール

P.08 安全に取り組むトラック運送業界

農業用のトラクター輸送で安全に注力、往復とも高速利用で日帰り運行に、デジタコで急発進や急停車をチェックし、自動点呼も導入、Gマーク認定取得で安全の見える化を実現

P.10 環境にやさしいトラック運送業界

化学品をタンクローリーに積んで、神栖から川崎や和歌山をはじめ全国に輸送、危険物もあるので全ドライバーが危険物取扱者の資格を持つ、グリーン経営は創設当初から認証取得

P.12 茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー

「トリマーからトラックドライバーに大転身」
大型やけん引免許を取り今はトレーラで海上コンテナを輸送
本田純菜(ほんだ・じゅんな)さん

P.13 「車や運転が好き」で昨年4月に高校新卒でトラックドライバーに

今は準中型免許なので2トンの車だが
「将来は大型車で長距離輸送をやりたい」
小林優人(こばやし・ゆうと)さん

P.14 社会との共生

持続可能な物流構築に向け、今、荷主は何をなすべきか
共に創る茨城の物流と未来をテーマにセミナー

P.15 会長からのメッセージ

くらしと経済を支える持続可能な物流構築には、
若いみなさんの力が必要です
一般社団法人 茨城県トラック協会 会長 小倉邦義

写真:牛久大仏(牛久市)

牛、豚、鶏などの畜産業には必要不可欠な配合飼料
鹿島臨海工業地帯では年間約400万トも生産
多数の配合飼料メーカーが集中する鹿嶋から
関東、甲信越・福島に輸配送し畜産を支える



鹿島臨海工業地帯は日本有数の工業地帯です。約180の会社(工場)があり、様々なものを製造しています。その中でも神之池西部地区には多数の配合飼料メーカーが集中していて、年間に約400万トもの配合飼料を生産しています。一つの地域内でこれだけの飼料が生産されているのは日本一といわれています。配合飼料は牛、豚、鶏などのエサですから畜産業では一日も欠かすことができません。それを運んでいる地元の運送会社を訪ねました。

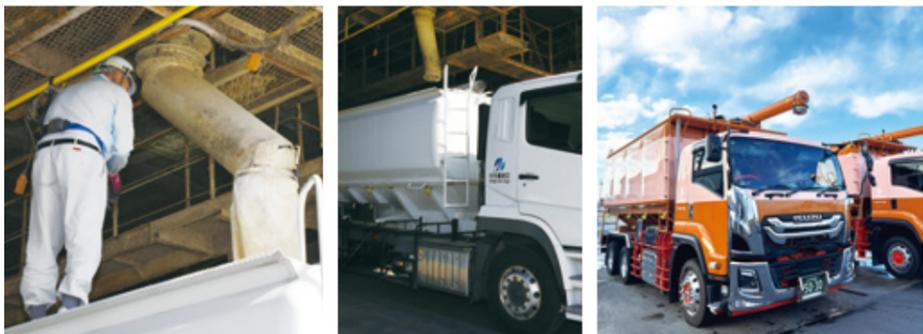


この会社は本社が行方市にあり、鹿嶋、水戸、つくば、千葉、神奈川、新潟に営業所があります。社員は240人、保有車両数が250台です。これらの車両の中にはダブル連結トラックと呼ばれる、大型トラック2台分を連結して一度に運べるものが25セット、セミトラレーラが10セットあり、その他には25ト車や5ト車などがあります。そして車両の約半分はバルク車と呼ばれるトラックです。バルク車というのは荷台がタンクのようなトラックで、粉状の配合飼料を専用で運んでいます。この会社ではその他にも生乳や牧草、卵などを運んでいます。畜産に関連した荷物の取扱が多い運送会社です。

その中でもメインは配合肥料の輸配送です。鹿島臨海工業地帯には多数の配合飼料メーカーが集中していますが、その多くのメーカーの配合飼料を運んでいます。また千葉県にある配合飼料メーカーの場合には、この事業者の鹿嶋営業所のサイロに、千葉の工場から移送して一時的にストックし、鹿嶋営業所を基点に輸配送するようなこともしています。

配合飼料の輸配送先は茨城県内はもとより、千葉、栃木、群馬などの他に甲信越や福島となっています。輸送と配送があり、配送は畜産農家に直接運ぶもの、輸送は拠点に運んで、そこから配送するというパターンです。この会社ではドライバーの労働時間短縮などからリレー輸送と呼ばれる方式も導入しています。鹿嶋営業所のドライバーが神奈川営業所、あるいは新潟営業所まで運んで、そこから先の配送は地元の営業所に所属するドライバーが交代して配送するという仕組みです。

このようにして鹿嶋で作られた配合飼料は各地の畜産農家に運ばれているのです。



働きやすい職場認証で
労働環境改善を推進

工場関係の荷物が主体で休日は比較的多く
福利厚生も充実させて社員の定着率も良い
しかし社員の高齢化の進行が大きな悩み
企業の発展には若い人の採用が不可欠
働きやすい職場認証の取得でアピール



さらに開発費（教育・人材・営業）、設備（トラック・ソフト・建物）に投資をして、取引先からの信頼向上も図っています。

定年も60歳から65歳に引き上げ、さらに70歳までの再雇用契約をできるようにしました。しかし、地元の

庫、引越サービス、学校の給食配送、生乳輸送などを行っています。取り扱っている荷物の多くは工場で作られる原材料などで、一部は関西方面への輸送などもあります。ほとんどは工場関係の荷物なので、取引先に合わせて休日は比較的多い会社です。

この会社では、福利厚生の充実にも努めているので離職する人が少なく、社員の定着率が良いのですが、

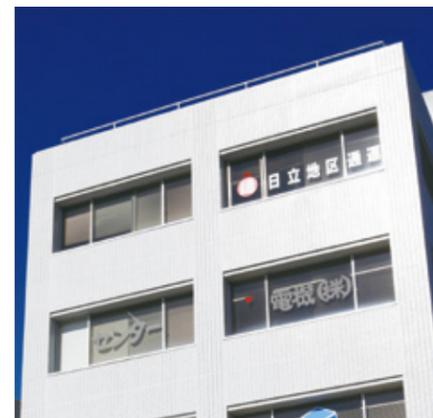
働きやすい職場認証制度は自動車運送事業者（トラック・バス・タクシー）への就職を促進するために、運送事業者の職場環境改善の取り組みを見える化する認証制度です。国土交通省が2020年8月に創設して、認証実施機関の指定を受けた団体が審査、認証をします。認証を取得するには、①法令順守等、②労働時間・休日、③心身の健康、④安心・安定、⑤多様な人材の確保・育成についての要件を満たす必要があります。働きやすい職場認証には一つ星、二つ星、三つ星があり、最初は一つ星から取得して順次、二つ星、三つ星となって行きます。

日 立市に本社のあるこの会社は、トレーラまで78台、その他にフォークリフトが14台です。

本社他に北茨城、高萩、日立、大みか、ひたちなかに営業所や倉庫があります。従業員は81人で、保有しているトラックは2ト車から運事業や、一般のトラック輸送、倉

人口は減少しており、若い人たちの首都圏などへの流出が続いています。企業の将来の成長には若い人たちの採用が不可欠です。もともと月給制（固定給）ですが、賃上げ、一時金は社会的責任であるとともに、持続的な成長への投資と考え毎年実施しております。今年の春闘も組合との団体交渉を進めており、3月中旬に妥結の予定です。

このような中で、2023年1月に働きやすい職場認証を取得しました。すでに以前から認証取得に必要な要件は満たしていましたが、あらためて認証を取得することで働きやすい職場であることを見える化し、若い人たちにアピールすることにしたのです。





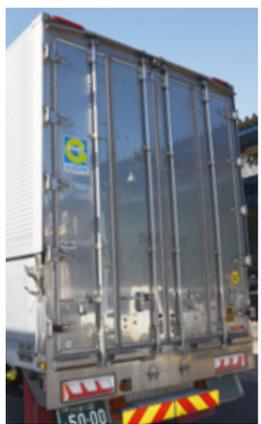
農業用のトラクター輸送で安全に注力 往復とも高速利用で日帰り運行に デジタコで急発進や急停車をチェックし、 自動点呼も導入 Gマーク認定取得で安全の見える化を実現



つくばみらい市にあるこの運送会社では、農業用のトラック1台を運んでいます。保有車両数は大型車8台と4トン車1台の9台で、運送事業の他にも別会社で整備工場を経営し、車検整備なども行っています。

みなさんは「G」マークのステッカーが貼ってあるトラックを見たことがありますか。「G」マークは、安全性優良事業所（Gマーク）の認定を取得した事業所に所属しているトラックに貼ることができます。安全性優良事業所というのは、①安全性に対する法令遵守の状況、②事故や違反の状況、③安全性に対する取り組みの積極性の3項目を評価して、一定の数以上を得て、その他の必要な要件もクリアすると、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関が認定する制度です。Gマークの認定には有効期限があり、継続するには更新申請が必要です。これからはトラックにGマークが貼ってあるかどうかを注意してみてください。

す。運送会社の社員数は10人でそのうちの9人がドライバーです。つくばみらい市に農機具などの大手メーカーの工場があります。工場で作られた農業用トラクターは、工場のすぐ近くの倉庫にいったん運ば



れます。この運送会社では、トラックターを倉庫からトラックに積み込んで、岩手、宮城、福島、新潟、長野にある農機具メーカーの各地の拠点まで輸送しています。トラックターを購入した農家などには、各地の拠点からそれぞれ地元の運送会社などが納品するような仕組みになっています。

この運送会社は工場から拠点までの幹線輸送ですから、一般には「横持ち輸送」などといわれています。一度に運ぶトラックターは2台から4台まで、平均は3台といえます。輸送の繁忙期は2月から4月で、農家が田植え作業をする前に代替えなどをしているものと思われれます。出荷のオーダーは輸送する3日前に、この事業者も加盟している協同組合の窓口から連絡が来ますので、輸送・配車計画は事前にたてられます。

この運送会社は2021年にGマーク認定を取得しました。これまでも安全には注力してきましたが、その見える化を図りました。安全対策ではデジタコで急発進や急停車その他をチェック。また自動点呼も導入して安全管理に力を入れています。

環境にやさしい
トラック運送業界



化学品をタンクローリーに積んで、
神栖から川崎や和歌山をはじめ全国に輸送
危険物もあるので全ドライバーが
危険物取扱者の資格を持つ
グリーン経営は創設当初から認証取得



SDGs（持続可能な開発目標）は世界的な課題になっていきます。17項目の中でもトラック運送事業者が取り組むべき優先的な項目は「エネルギーをクリーンに」や「気象変動への対応」などです。環境負荷軽減の取り組みでは、トラック運送業界にはグリーン経営（環境負荷の少ない事業経営）という認証制度があります。グリーン経営というのはISO14031（環境パフォーマンス評価に関する国際規格）の考え方に基づいて、環境保全のために必要な項目や目標を設定し、一定のレベル以上の取り組みをしている事業者に交通エコロジー・モビリティ財団が認証する制度です。



グ車など11台です。本社の車両はタンク車で、香取営業所の車両はトレーラー（2セット）とウイング車です。この会社では神栖にある大手メーカーの物流を行っています。本社では化学品（液体の原料）を主に運んでいます。また、香取営業所では製品や半製品を運んでいます。化学品ですから中には危険物もありますので、ドライバーは全員、危険物取扱者（乙種4類等）の資格を持っています。また、異なる化学品を運ぶ場合には、化学反応しないようにタンク内を洗浄する必要があります。そ



のため本社内にはタンク洗浄設備も備えています。輸送先は川崎や和歌山にある取引先の工場が多く、約半分はこれら2つの工場です。しかし、それ以外の地方にも輸送しています。やはり輸送先は関東が多いですが、全国の工場に化学品を運んでいます。この運送会社では安全管理や環境にやさしい運送に力を入れてきました。環境保全ではアイドリングストップでCO₂排出などの削減にも取り組んできました。そのためグリーン経営の認証はかなり早い時期に取得して今日まで継続しています。



神 栖市にあるこの運送会社は、本社の他に千葉県香取市に香取営業所と香取倉庫があります。また、取引先の工場の構内作業も請け負っています。営業所も含めた従業員数は87人で、そのうちの43人がドライバーです。その他にも工場内作業をしている人がいます。
保有車両は本社が単一車及びトレーラーやシャーシ（被牽引車）など62台、香取営業所がトレーラーやウイング



「トリマーからトラックドライバーに大転身」

大型やけん引免許を取り今はトレーラで海上コンテナを輸送

本田純菜(ほんだ・じゅんな)さん



茨城町にある運送会社で働いている本田純菜さん。最初は動物関係の専門学校を出てトリマーになりました。しかし、運転が好きなのでドライバーになりたとい、ハイエースで自動車部品の配送などをしていて運送会社で働きましたが、もっと大きなトラックに乗りたいと大型車の免許を

取り、現在の会社に入りました。その後、けん引の免許も取って「3年前からトレーラに勤務しています。トレーラは格好が良い」といいます。東京港(大井コンテナふ頭)から海上コンテナを積んで運び、コンテナを積んで帰る仕事をしています。

本田さんは水戸市の出身で、動物関係の専門学校に行きました。そして最初はトリマーの仕事をしていたのですが、運転が好きなのでドライバーになりたとい、自分で大型免許などを取りました。現在の会社では3年前からトレーラに勤務して働いています。運んでいるのは海外から入ってくる海上コンテナ(通称・海コン)です。海コンを積み込むのは東京港の大井コンテナふ頭です。海コンを積んだトレーラを運転して茨城町にある会社に帰ります。そして翌朝に会社を出発して納品先に海コンを運びます。輸送先は茨城県内をはじめ、栃木県、群馬県、千葉県などですが、長野県や静岡県などにも行くこともあります。海コンを運んでいくと、荷物を受ける会社の人たちがコンテナから荷物を出します。これをデバンニングといいますが、コンテナへの積み込みは



バンニングといいますが、コンテナを積んで東京港のコンテナヤードに運びます。その後、荷物の入った海コンを積んで会社に帰るという仕事です。本田さんは「運転している時の1人の空間が好き」といいます。会社には水戸の自宅から車で通っていますが約20分程度です。基本的には土日と祭日が休みで、休みの日には「バイク(400cc)で出かけます」。



「車や運転が好き」で昨年4月に高校新卒でトラックドライバーに

今は準中型免許なので2ト車だが

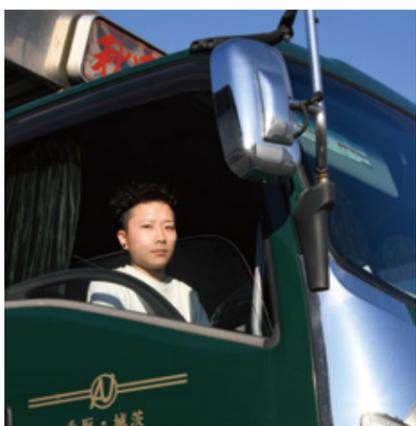
「将来は大型車で長距離輸送をやりたい」

小林優人(こばやし・ゆうと)さん



取手市にある運送会社でトラックドライバーとして働いている小林優人さん。「車や運転が好きだったのでドライバーになりたかった」といいます。小林さんのお父さんはトラックドライバーをしていました。その影響もあるでしょう。そこで高校を卒業して昨年4月に運送会社に入りました。しかし、この会社は高校に求人募集をしていませんでしたが、求人サイトに募集広告を出していたのです。小林さんはその求人サイトの募集を見て応募しました。実はお父さんが昔、働いていた運送会社だったからです。

小林さんは龍ヶ崎市の出身で、今も龍ヶ崎市から車で会社に通っています。通勤時間は15分ぐらいです。この運送会社は2ト車から大型車まで平ボディ車、ウイング車、ユニック車など40台があります。主に運んでいる荷物は建設資材や電線などで、その他にも精密機械やイベント用資材なども運びます。建設資材は牛久、取手、龍ヶ崎、土浦などから積んで、全国各地の工事現場に運びます。電線は石岡で積んで関東を中心に大阪などにも運びます。



小林さんは2トの平ボディ車で電線やケーブルを輸送しています。輸送する地域は地元茨城や栃木、群馬、埼玉、東北では福島にも行きます。納品先は工事現場や電材販売店です。電線はドラム状のものと箱入りがあります。工場での積み込みはフォークリフトで、納品現場でフォークが無い場合でも荷降ろし用のマットがあるので、荷役作業は楽なようです。輸送する場所によって朝5時、6時の出発などがありますが、往復とも高速道路を使いますので昼ぐらいには電線工場に帰って翌日の荷物を積み込んで、夕方までには会社に帰ります。基本的には土日が休みです。



小林さんは「最初は朝早いのに慣れるまでが大変だったが、運転が好きなので楽しい」といいます。まだ準中型免許なので2ト車の乗務ですが、「年齢が来たら中型免許や大型免許を取り、将来は大型車で長距離輸送をやりたい」と考えています。

持続可能な物流構築に向け、今、荷主は何をなすべきか 共に創る茨城の物流と未来をテーマにセミナー

トラック運送業界は「2024年問題」という課題を乗り越えるために努力しています。「2024年問題」とは、トラックドライバー不足を解消して国民の暮らしと日本経済を支える持続可能な物流を構築するという大きなテーマです。そのためにはドライバーの労働時間短縮や待遇改善に取り組みなければなりません。とくに重要なのは荷物を出す発荷主、荷物を受け取る着荷主の理解と協力です。そこで茨城県トラック協会では昨年5月20日に、茨城県トラック総合会館で取引の適正化に向けた取り組みを中心にしたセミナーを開催しました。

当セミナーはトラック協会と茨城県が共催し、国土交通省関東運輸局茨城運輸支局、厚生労働省茨城労働局、トラック輸送における取

引環境・労働時間改善茨城県地方協議会、一般社団法人茨城県経営者協会、茨城県商工会議所連合会、茨城県商工会連合会、茨城県中小企業団

体中央会、茨城県倉庫協会、JAG ループ茨城、全国農業協同組合連合会茨城県本部、茨城県消費者団体連絡会、日本労働組合連合会茨城県連合会、全日本運輸産業労働組合茨城県連合会、公益社団法人全日本トラック協会が後援しました。セミナーには、会場への入場者だけでなく、オンライン視聴も含めて多くの県民の皆さんが参加しました。セミナーでは、最初に共催した茨城県産業戦略部の大竹真貴部長が挨拶を行いました。続いて講演に入

り、第一部では「下請法改正法案の概要」と題して、公正取引委員会事務総局経済取引局取引部企業取引課の亀井明紀課長（トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会委員）が講演。第二部は国土交通省関東運輸局自動車交通部の矢吹尚子部長が「『トラック・物流Gメン』の取組について」、また、第三部では船井総研ロジ株式会社執行役員 田代三紀子 コンサルティング本部 副部長が「『2024年問題で終わりはしない！』今、荷主企業が取り組むべき時流適応策」のテーマで講演しました。最後に主催した茨城県トラック協会的小倉邦義会長が挨拶をして閉会しました。



会場風景



茨城県産業戦略部
大竹真貴 部長



公正取引委員会事務局
亀井明紀 課長



関東運輸局
矢吹尚子 自動車交通部長



船井総研ロジ
田代三紀子 副本部長



小倉邦義 会長

会長からのメッセージ

くらしと経済を支える 持続可能な物流構築には、 若いみなさんの力が必要です

一般社団法人 茨城県トラック協会
会長 小倉 邦義



「持続可能な物流」という言葉をご存じでしょうか。私たちトラック運送業界は、国内貨物輸送量の約90%を運んでいる基幹産業です。しかし、シンクタンクなどの試算では、ドライバー不足などによって2030年には30~35%が運べなくなってしまう可能性があります。このままでは私たちの日常生活や企業の経済活動に大きな支障が出てしまいます。

このようなことから「持続可能な物流」を構築することは、日本経済と日本の社会にとって大きな課題です。当たり前の日常が維持できなくなってしまうからです。そのためには、国内貨物輸送の約90%を担っているトラック産業の健全な発展が必要なのです。

平穏な日常だけではありません。地震や水害などの自然災害に見舞われた時には、避難所への物資輸送が不可欠です。緊急物資輸送の中心的役割を果たしているのがトラック輸送です。そこで私たちトラック運送業界では国や都道府県さらに全国の市町村と緊急物資輸送の協定を結んでいます。茨城県トラック協会も、地域ごとにある13の支部で、それぞれの地元自治体と協定を結び、非常時の要請に応えられるようにしています。

このように「持続可能な物流」にはトラック運送業界の健全な発展が不可欠です。そのためには若い人たちに私たちの業界に就職して頂くことが必要です。このようなことからトラック運送業界の実際の姿を知っていただくため「レインボーウェイ」を発行しています。



レインボーウェイ HEARTFUL COMMUNICATION MAGAZINE 2026



発行日 2026年3月31日

発行所 一般社団法人 茨城県トラック協会

取材協力 秋田運輸 株式会社
株式会社 飯田商事運輸
株式会社 茨城荷役運輸
牛久大仏
行方運送 株式会社
橋本運輸 株式会社
日立地区通運 株式会社
まきば飼料 株式会社

制作 有限会社 物流ジャーナリスト倶楽部

スタッフ Design by maxDesign
Photo & Text by F.Morita
(写真の一部は取材先からの提供もあります)

一般社団法人 茨城県トラック協会

〒310-0913 水戸市見川町2440-1
TEL 029-303-6363 FAX 029-243-5936

ホームページ <https://www.ibatokyo.or.jp>
〈無断転載禁ズ〉

